



- 体育会名：関西学院大学体育会体操部
- 創部年：1947年(昭和22年)
- 2025年度会員数：15人(4年1人、3年6人、2年3人、1年5人)

- 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会体操部同窓倶楽部
* 関西学院同窓会 公認団体

- 同窓倶楽部通称：OBOG会
 - 設立年：不詳
 - 会員数：212人(男性169人、女性43人)
* 物故者含む

1940(昭和15)年、高等商学部在籍の谷一健雄が仲間を集め器械体操の練習を始めたというが、当時の資料がほとんど無く、詳細は不明である。

第2次世界大戦後、46年に山脇義明が中心となり大学で部としての活動を開始。47年4月に総勢5人で体育会本部に申請、「器械体操部」として正式に創設した。創設当時、部室は与えられたが、競技としての設備や器具(ゆか、鞍馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒)はなく、唯一屋外に鉄棒を組み立てて練習するという状況にあった。

体育館もなく、YMCAや北野高などを間借りし、阪神間を転々としながら練習場所を確保していた。山脇義明が神戸女学院に練習場所の依頼に行ったが、すげなく断られたという逸話も残っている。48年には5人の新人部員が入り、総勢10人となり部活に邁進していた。また、同年7月には早大との第1回早関定期戦が開催された。

競技としての戦績は、47年の関西インカレでは惜しくも団体準優勝だったが、48年の第2回大会でみごと団体総合優勝を果たした。個人でも石田勝が個人総合優勝し、関学の名を全国の大学に知らしめた。また49年の第3回大会でも団体優勝を飾っている。

50年代に入り、設備、器具は少し整備されてきたが、いまだ流転の練習は続き、環境は大きくは変わっていなかった。そういった苦しい練習環境の中、54年の第4回西日本インカレで高田洋二が個人総合優勝を勝ち取り、部としての歴史の中に大きな足跡を残した。また、56年の第6回西日本インカレでは団体総合3位、種目別でも左海省司がゆかで優勝、跳馬で2位、平行棒で3位という結果を残している。そんな中、58年には西日本インカレで団体優勝を飾り、部員数も20人となり名実ともに大きく飛躍した。

59年の新総合体育館建設の前後から優秀な人材が集まり、第3の興隆期に入る。

中里毅、阿部弘、安福和夫、新山定好、足立興、菖蒲池弘と各年代にそれぞれ優秀なプレーヤーが在籍し、西日本インカレ、全日本インカレで常時上位を占めるに至った。設備面に於いても、60年には体操器具が新設され、ゆか運動のマットも新規購入された。

その後部員数の増減はあったものの、関西や西日本での名声は不動のまま推移した。

67年には2部に転落したが、光法泰信、吉川優といった優秀な選手が在籍し、吉川は69年の関西インカレで個人総合優勝、西日本インカレで個人総合3連覇を達成し、68年には全日本インカレ2部で個人総合優勝を飾っている。

70年代には入り、西田富一、錦織春吉、それ以降も夏原有美、宮崎洋彰、御手洗修ら、それぞれの年代でキーマンたる人材を輩出、現在まで引き継がれている。

77年には初の女子選手として中川真弓、村田朝子の2人が入部し、現在まで途切れることなく女子の部活は活発に行われている。

80年代は他校の台頭や部員数減少の影響で関西インカレや西日本インカレでは結果を残すことが難しい状況が続いた。

87年頃から90年台後半にかけて部員数は徐々に増加し、88年には数年ぶりに男子が全日本インカレに団体出場することができ、2部で10位という成績を残している。また、87年10月に行われた第24回全日本トランポリン選手権のタンブリング部門で西川英也が堂々の優勝を飾っている。

90年代後半からまた部員不足に陥り、練習のために器具をセッティングするのも苦労する状況が続いたが、久保仁史が中心となり部を存続させていった結果、2002年頃から男女とも部員数が徐々に増加し、試合でも結果を残せるようになった。

05年には森本景子が関西インカレで女子個人総合4位、段違い平行棒で2位に入賞、同年8月の全日本インカレでは2部で個人総合8位に入賞している。

05年6月に宮本春樹が監督に就任してからは、スポーツ選抜入試で毎年1～2人の優秀な選手が入部してくるようになり、関西インカレでは男子は10年から17年までの8年間、大体

大、天理大に次いで団体3位の座をキープ、16年には福原夢が個人総合で3位入賞、種目別鉄棒で優勝し、関西学生体操連盟から年度優秀選手賞の表彰を受けている。また、16年に入学した臼井大起は1年生の時から安定したミスの少ない演技で高得点を残し、関西インカレ団体総合3位に貢献している。

全日本インカレでは、男子は07年から11年まで団体出場を果たしているが、新潟経営大、富山大など練習設備の整った新興体操部の台頭もあり、12年以降は14年に団体出場を果たしたものの、15年以降は団体出場できていない。

その中であって、16年以降は女子で原朝未、成瀬瑠花、竹内愛莉といった優秀な選手が入部してくるようになり、個人ではあるが全日本インカレへの出場が続いており、竹内は23年の全日本インカレ段違い平行棒で6位に入賞している。

総合関関戦では04年まで通算10勝17敗と負け越していたが、05年から男子は12連勝、女子も含めた総合成績も17年まで引き分けを挟んで9連勝という戦績を残し、17年の時点で19勝17敗と勝ち越すことができた。しかしながら17年に関大に体操競技専用体育館が新設されたのを機に18年以降は勝つことが難しくなり、25年の時点で通算19勝22敗と負け越している。

近年体操競技は難度の高い技を要求され、部員はそれに追いつこうと必死で練習に励んでいる。難度の高い技は大きな怪我に結びつきやすく、安全面を考慮した設備と器具が備わった専用練習場が必要である。現在の関学の練習場環境は他校と比べて十分とはいえ、関関定期戦においても十分な設備がないため迷惑をかけているのが現状である。今以上の成績を残すためには、専用練習場の確保および体操器具の整備が必要であり、現役部員とOB・OGが頭を悩ます課題である。

現在実施している定期戦は総合関関戦だけであり、創部間もない1948年から続いていた早関戦は両校の諸事情により2016年に廃止となった。

なお、部名は2011年に「器械体操部」から「体操部」に変更している。

体操部 部史 編集担当者 宮本春樹(S48 商学部卒)